

2019年平和のための広島戦争展アンケート

展示期日：2019年8月23～26日（4日間）

展示会場：広島県民文化センター地下展示場

入場者数：868人。アンケート回収数：199通

凡例 性別・年齢・アンケート本文 なお、順番は入場順です。

女78「軍都広島……友人は、学会員。初めての戦争展に感激した様子であった。私も、繰り返し学んで、＜軍国主義NO！＞を、多くの人に伝えるために、力としたい。すばらしいとくみである」

女57「広島が、日清戦争～第2次世界大戦での、日本で唯一の兵站であったという事実。軍事に関わりの深かったことを、改めて感じた。私たちの意識の中に、戦争の被害者と加害者の両方があることを自覚しておかなくてはと、……。戦争の結果は、むごいものしかない」

女46「当時の物を見るだけで心がたくなります」

性不明76「今日見たことは、私には悲しすぎます」

男70「説明文を読むのが大変で、時間がかかった。これだけ資料を、よく集めたものだ。ありがとうございました。強制動員や、高橋信雄さんの話」

女69「ビデオ＜徴用工の韓国の労働者の証言＞」

女68「毎年開かれる戦争展。今年は特にいろいろと工夫をこらしたなど、思いました。4日間、ず～ときてみたいと思いました。（無理ですけど）」

男71「ヘイトスピーチ、慰安婦ポスターは、昨年なかったもので、集めることの努力が垣間見えて、戦中資料と共に、良い資料だと思いました。若い人(大学生か?)も見に来ており、場所が良いので、ふらっと寄ってもらえるのが、強みですね。」

女33「被害者意識が強かった。あいまいな知識しかなかった。日本人であることが、いやになった。事実を知って、韓国や他の国の訴えにも、耳を傾けないといけない。自分のことだけでない。知ること、理解することは、大事。正しい知識を持つことが、大事。近代史にも、目を向けていきたい。その時代に生きた人々のことを知って、流れてきた時間や、起きたことの実事を、無駄にしたり闇に葬ってはいけない。いろいろ説明してもらい、とてもよかった。ありがとうございました。」

男65「常設展示とすべきです。」

女24「通りがかりで、来させていただきました。私は、広島で役者をしており、今月の初めに、平和劇＜ヒロシマの孫たち＞という作品を上演しました。5年目になり、いろいろと平和について、ヒロシマについて考えてきたつもりでしたが、改めて今回の展示で学ぶこともあり、来れてよかったと思えました。時間がなく、全てを見ることはできませんでしたが、機会があればまた来たいと思います。」

男59「子や孫の代に、平和が続くように、一人ひとりがしっかり考え、現地を見て感じる大切さを、再考させられました。」

女70「戦争当時の実物が、直接手で触れられる形の展示が、他にはあまりなく、臨場感がありました。多くの資料の収集、保存に、敬意を表します。」

女61「広島生まれ、親や祖父母も原爆に会ってます。おじさんも、おばさんも。「石崎ムツ子」さんも、身内です。皆さん、亡くなりました。私も、いずれ死ぬでしょうね。皆死んでいくのに、なぜ人を殺すのかしら。」

男年齢不明「危惧。繰り返さないよう、過去の歴史をしっかりと、いつまでも記憶にとどめ続けなければいけないなど！ 歴史修正主義と、たたかい続けなければならない。悪いのは、軍隊だけではないぞ！ 国民にも、責任はあるぞ。今は、とにかく安倍政権を倒さなければいけない！ 今日、お寄りしてよかった。」

女57「伝えること、学ぶことを、続けます。」

男67「安倍政権の、露骨な韓国敵視の行く末が恐いです。日本が何をしてきたか、こうした展示を多くの人が見ることが大切です。」

0床17「現代では、なかなか目にする事ができない赤紙や軍服。また、本物の陶器手りゅう弾などを目にする事ができて、良かった。よく、戦争は遠い昔のことだと、言う人がいる。実際は、100年も経っていないことを、改めて実感した。」

男16「崇徳高校の、平和問題研究部の一員です。今回は、発表の場をもうけていただき、誠にありがとうございます。とても、貴重な経験でした。戦争展の展示の原爆瓦が、自分たちの先輩方が見つけれられたものと比べて、似たようなものと、そうでない変色したようなものとかあり、興味深かったです。」

男16「日本軍や、戦時下の広島についての貴重な資料が見られて、とても良かったです。ありがとうございました。」

男16「様々な展示物を見て、戦争がより身近にあったことなのだと、改めて実感しました。731部隊について知ることができたのは、とてもよい経験でした。発表することもできて、良かった。」

女43「戦争は、こわい。展示を見ているだけで、胸がしめつけられる思いがした。出兵する人の、家族写真を見ても、誰も喜んでなんてない。バンザイなんてありえない。戦争や当時の思想は、これから先も決してあってはならないと思った。」

男36「赤紙や、訃報を遺族へ伝える手紙など、実物を見ることで当時の人々の心情を想像することへの意識がより高まりました。原爆投下後の新聞に、シャッターが切れないほどの光景です、地獄だという記述が、印象的だった。」

男44「広島に生まれ、小さい頃から平和について学習してきたが、まだ自分の知らないことがたくさんありました。それと、平和公園へ行くと、日本人より外国人の方が真剣に見られていることに、悲しくなる。」

女22「普段、見たり聞いたりすることができないので、すごく勉強になりました。実際に、写真や実物で見ることで、文字だけでは伝わり切れない部分が見えたり、わかったりもします。このような展示会が、もっとあればいいと思いました。」

女38「高校生の平和活動、ぜひ来年もしてください。野蛮な日本人の歴史を忘れない。このようなとりくみは、今後もつづけて行って欲しいです。」

女64「毎年来ています。実物資料が、迫力があります。続けることが、大切です。シニアの人が多いですが、若者もいてうれしかったです。関係者の皆様、ありがとうございます。」

女年齢不明「731部隊などのしたことを、日本人すべてが知るべきだ。」

女49「写真や当時の物、遺品が展示されており、説明文もわかりやすくて良かったです。」

男36「私が生まれた病院も、731部隊と関連があったと言われていました。病院の裏には、陸軍登戸研究所があったからです。もしかしたら、私が生まれた頃には、731部隊に所属、あるいは関わっていた人が、病院にいたのかもしれませんが。強制徴用工の問題については、北海道で聞いた証言を、戦争展のスタッフの方とお話できて、本当に良かったです。」

男70「今後とも、頑張ってください。」

女90「今日、知らずに来ました。涙なみだ、昭和5年生まれ私、90歳まで生かされて、平和に生きています。戦争で亡くなられた方々のこと、1日も忘れません。毎朝起きると、東の方に向かって手を合わせ、尊い皆様の命の上に生かされて、本当に申し訳ありません。どのようにか苦しく、つらかったことでしょう。ご冥福をお祈りしています。」

男63「大変、勉強になりました。やはり、戦争は二度と起こしてはならないと思うが、強くなりたい。」

女64「731部隊のことなど、今まで知らなかった。また、朝鮮半島と日本の歴史も。むしろ、恐さで遠ざけていた。被害のことだけではなく、知らされなかったことも、理解を深めていかなければと思いました。」

男43「広島若者と、原爆と平和についての演劇作品を作っています。……『平和』という2文字に、どのような詳細が含まれていて、温度や手触りを感じるのか。今、大きな言葉が氾濫している中、感覚的に触れる場や、機会が一層求められていると思います。」

男72「数回目ですが、回を重ねるごとに、充実していくことを、うれしく思います。」

男70「絶対あってはならない、戦争は！！」

男59「素晴らしかった。勉強になりました。」

男62「広島軍都については、もう少し突っ込みがほしかったです。当時の鉄道の、西の端というものもありますが、そもそも、宇品港の軍港もあるのではないのでしょうか。川久保さんの本を読むと、千田知事が軍港としても利用できるとして、築港したようです。」

女38「去年から見えています。今年で、2回目です。今回、731部隊のことを知りました。とつても、悲惨でした。絶対に、二度と戦争や人体実験なんて、あってはいけません。平和の世の中に、絶対になつてほしいです。」

女68「私の実家は、疎開していた人を受け入れていた家であった。私が幼い頃は、ゲートルがあったり、疎開の人が庭を耕したり、芋を植えていたり、という話を聞いて育ちました。ますます、平和の時代に向かうという空気で、戦争のことは学びもせず、よりよい生活をするためにと歩んできた。今、韓国との間がこじれているが、何故……その答えが、この戦争展に隠されていると感じた。少ししか見ることができなかったが、来年はもう少し勉強させてもらって、もっとよく知る必要があると反省した。」

女72「慰安婦問題や徴用工に関して、日本の近代史について、勉強不足を痛感しています。真実を学ばなければ(人として、国として)、他の人と、他の国と友好な関係は結べないと思います。

学校教育に、期待しています。(教育は重要で、人が人間として生きていくための必須なので)」

女65「ゆったりとしたスペース。実物を身近に見ることができるのが良いです。毎年来ています。続けてください。」

女67「この年になつても、戦争の本当の実態を知らなかったと思いました。いかにして、若い世代の方々に戦争の無意味さを伝えていくか、思案致します。」

女34「私は、あまり戦争のことを知りませんが、おばあちゃんや知人から話は聞いています。今では、図書館にてこういった歴史の本や写真集を読んでいます。「アンネの日記」を見たときは、震えが止まりませんでした。「はだしのゲン」のDVDも、同じです。二度と戦争が起きないことを、祈っています。」

女72「父の残していった、水筒やゲートルなど、思い出しました。たった74年前の原爆ですが、語り部も少なくなり、風化しようとしています。映像で残す、形として残すことの大切さを、感じています。戦争は、二度とあってはなりません。思いを新たにしました。」

女48 「明日か、あさって、中3と中1の子どもたちを連れて、また来ます。心にぐっと刺さる内容の展示でした。こういう戦争展は、とても良いとりくみです。感謝します。」

女60 「今の日本に、一番足りないものは<教育>だと思います。一部のエリートが、幸せに暮らしていくために、大多数の子どもたちが受ける教育は、「歴史を知らされない」「覚えるだけで、自分の頭で考えない」全体主義コマの一つとして、育てていく、子どもたち。そして、明らかに日本は戦争に向かっており、その前線に送られる子どもたちが、育てているのかと思うと、本当にこの国はどうなっていくのか、心配でなりません。このような展示を、一人でも多くの若者が見て、自分のこととして感じてほしい。大人は、若い人たちに、伝えていく義務があると思います。」

男77 「日本は、戦争をしたことについて、真に反省していない。アウシュビッツで、ドイツの若者が多く来ていた。ドイツは、反省しているという。」

女80 「毎年、戦争への警告として、あらゆる資料や情報で伝えられていることに、敬意をはらいませぬ。イベントは、聴くことはできませんでしたが、プログラムは豊富で、多くの人が見て聞いて考えてくださることを、切に願います。ありがとうございました。」

女72 「韓国問題は、とても大切だと思います。日本人の私たちは、素直に反省し、韓国への敬意をもって、行動しなければと思います。そして、友好が進むことを願います。ビデオでの、ソンさんのことば「戦争は、絶対してはならない」を、自分の肝に命じたいです。イベント会場では、高校生平和ゼミ、呉の歴史、南スーダン、広島先生たちの物語。」

女年齢不明 「イベント会場……嫌韓はどこから来たのか、ある人生、ヒロシマと満州」

女39 「私の祖母は、戦争体験者。私に言っていた、「〇〇ちゃんには、この大変さはわからない」と。そうだろうなと、思う。戦争ほど残酷なものは、この世界にない。絶対、絶対、二度とやってはいけない。みんな仲良く手を取り合って、平和に安心に生きようよ。ジョン・レノンさんの「Imagine」だよ。」

男69 「イベント会場「嫌韓はどこから来たのか」……日韓対立の問題について、ある新聞は「安倍政権が続く限り、解決不可能」書いています。あの戦争について、「まちがっていない」と考えている人間が中心になり、政権運営している。安倍政権は、日韓対立をあおり、憲法九条に自衛隊を明記しようと、憲法改正をねらっている。今の状況は、きわめて危険と言わねばなりません。私たちは、歴史の事実をしっかりとりえ、未来志向の立場で考え、行動したいと思います。」

女65 「<731部隊>の主なメンバーが、そのまま、医薬品会社へ、病院へと天下り、地位を得て現在へと続いていると知り、心が寒くなる思いがしました。知らないということは、恐ろしいことです。これからも、戦争展を続けていってください。」

男05 「戦争は悲しいこと。絶対してはいけない。(母代筆)」

女36 「イベント会場での映像を見て、再確認させられることが多かったです。ぜひ、世の中の人全員に見てもらいたいですね。特に、若い人たちに。誰かがやってくれるだろう。面倒なことには、関わらない、と考えている人が、多くなってきているので、それではダメだと思います。」

女46 「戦争は、人権を踏みにじる行為ですね。二度と、戦争の無い世界にしたいと思います。」

男08 「いろいろな、げんばくにかかわるものがあって、きょうみぶかったです。」

女03 「せんそうはこわい(母代筆)」

女33 「今の日韓関係をみるときに、歴史から見ていく必要がある。パネルで、時系列で見ていくことで、何があったのか、そのときの国内の様子はどうな感じだったのか、知ることができた。こうした歴史の経過を、ちゃんと学べる場が大事だと思った。本当は、学校で、教育の中で、身につける知識ですが。」

女60「原爆資料館にも行ったことはあります。身近でも、御幸橋や被爆建物を見る機会もありますが、市民の暮らしなど、興味深かった。」

男82「強靱な印象を受けた。あまりにも多い資料、写真、書物に圧倒された。よくぞ、収集されたものだったと思う。戦争展開催にたずさわった方々に、感謝。」

女86「小学校時代、軍国教育をまるまる受け、6年生で敗戦。侵略戦争であったことが、改めてよくわかりました。多くの資料を集められて、ありがとうございました。」

女47「戦争のない世界を、強く望みます。」

女67「本当に知らされていないことが多くて、背筋が寒くなるような内容でした。100歳になる母は、大連で生まれましたが、中国内で行われていた戦争については、何も語りません。たぶん、知らなかったのだと思います。中国の方たちに対しては、差別的な考え方で、貧しい暮らしをしていたと言います。自分は、すごくいい暮らしをしていたという印象を持っているようです。戦後、引き揚げのときに、何一つ持ち出せなかったことが、くやしいと。ロシア兵のことは、ロスケと言って、ロシア＝共産主義に結びつくようで、反共の立場です。」

女30「歴史の真実を、世界に広げなければならないです。やりがいがあることを、やるべきことを、頑張り続けてください。」

女47「広島のある意味加害の責任についても、認識しなければと思いました。韓国のごことは、今ニュースで、いろいろと言われますが、広島の人こそ歴史の中で語れなかった痛みを、共有すべきではないでしょうか。そう、考えさせられました。」

男66「貴重な資料を公開していただき、ありがとうございました。これからも、マスコミなどに載らない真実の資料を公開していただきたいと、思います。」

女20「8月7日発行の新聞があったのに、びっくりしました。……※あの日、発行していたらこうなるかなという、被爆50年時の中国新聞労組の力作です。」

女年齢不明「今の日本と韓国の情勢。国の貿易予算の増大。政治家の言葉。国際協調主義から、自国ファーストへ。という流れに、戦前にならないかという危惧がある。知らない間に、国民がだまされ、高揚感をともなっていた、戦前の事実と歴史を知ることで、今後の流れを変えることになるよう、このような企画は大切と思う。」

男59「1990年頃の被爆建物のビデオをみて、あれから30年経った今、解体された建物が多すぎて、ため息が出ます。」

男65「勉強になりました。ありがとうございます。」

男27「一方的な意見が多く、参考にならない。もっと、多方面から見た意見の掲示を望む。」

男66「被爆都市HIROSHIMAという面だけが強調され、軍都であった、その兵站のために盛っていたという面は目をつむむという、一般的なマスコミ報道に、違和感を持っていました。HIROSHIMAも、ある一面では加害者であるという、この展示の示唆に賛成です。戦争は、止めよう止めようというだけでは止まらない。また、原水爆はダメで、通常兵器は良いというわけではありません。根本的な戦争停止、平和の達成を追求したい。」

女59「エイズと731部隊。 水木しげるの漫画の中に出てくる慰安婦の場面。平和ボケしている今日、戦争が日常であることにならないよう、自分にもできることをしたいと思った。」

女66「DVD＜原爆遺跡を残す＞は、広島記録として貴重で、よくわかりました。 戦争の恐さを強く感じる、戦争展でした。」

男83「戦争展へ、協賛品を出させてもらっています。来年も、続けてください。」

女22「SNSや、テレビで流れるニュースで、最近の日韓関係悪化について、取り上げられていることもふまえて、特に慰安婦問題について、自分なりに考えることができた。SNSや、インターネットで目にする「なぜ日本ばかりが謝罪しているのか」などの意見に、疑問を持っていた。しかし、この展示を見て、やはり過去の罪、日本がやってしまった事実は、きちんと受け止めるべきだと思った。歴史を学ぶ意義が、再確認できました。」

男57「勉強になりました。これからも、真の歴史を学び、戦争の悲惨さやむごさを後世に伝えていかなければならないと、痛感いたしました。こうした戦争展が、将来もずっと開催されることを祈りたい。」

男11「なぜひろしまにげんぱくがおとされたのかが、わからない。せんそうは、ただひとのこころをビリビリにひきさくだけです。」

男94「私は、昭和20年11月1日、広島市の西部第2部隊へ、入隊した。あちこち異動しました。熊本では、空襲で私物など焼失しました。昭和20年8月1日、広島駅を通過し、岡山県の方へ移動し、そこで終戦となりました。今回展示されているものは、懐かしいものばかりです。終戦後、9月1日に復員して広島へ帰りましたが、惨状はひどかったです。」

女18「知らないことを、詳しく知れた。」

男29「パネルを組み合わせて紹介されていたので、分かりやすかった。非原爆だけでなく、他の視点から戦争を見つめることができ、勉強になった。」

女29「731部隊のことを知らなかったなので、知れて良かったと思いました。また、展示1のコーナーでは、寄贈品の実物が直接見られて、リアル感がありました。」

女67「真実はどうなのか、知らないことが多いと思う。日本の歴史教育が、あまりにもお粗末なことの結果ではないか。もう、この年になってしまったが、改めて意識する企画をされていることに、感謝です。」

男60「出征を祝う幟や、日章旗には、いろいろと考えさせられた。戦争の熱狂の一端を見ることができ、良かったです。「かが」の空母化のお話も、良かったです。毎年続けてください。」

女77「命の大切さ。人と人が、仲良くすることの大切さ。ビデオは、「岡さんの話」「被爆建物。」

男50「歴史に向き合い、明るい時代へ。そのためには、真実を知るべき。」

女50「戦争の、生々しさを感じる展示品ばかりです。本当に、恐ろしい戦争は現実にあったのだと思います。二度とたくさんの罪のない人々が亡くなる戦争や、核兵器の使用など、絶対にあってはならないと思いました。私も、二人の息子がいます。大切に育ててきた子どもを、戦地に送らないといけないかと思うと、胸がとても痛みます。その当時の母親たちは、苦しくとてもつらかっただろうと思いました。今の平和な世の中を守り、子どもたちも相手を思いやれる、優しい心を育てて、争いのない世の中であってほしいです。」

女48「「かが」が、2023年から空母になってしまうかもしれないなんて、恐ろしいことです。断固反対します。10・6も、呉に集まりたいです。憲法違反は、とても許せるものではありません。」

男74「21か条の要求が、ターニングポイントだと思う。」

女21「実物を見ることができ、とても勉強になりました。検定教科書は、初めて見ましたが、とても興味深かったです。(私が教員を目指しているということでもあります) 出征の旗を見ると、戦争に行くことは幸せなことというのがうかがえます。、私でも、弱音を吐けないという気持ちになりました。赤紙も、実際に自分の名前が記入されて届くことを想像すると、何とも言えない気持ちになりました。」

女23「民俗資料館に置いてあった教科書が、とても印象的でした。もし、戦後に黒塗りされた教科

書などがあつたら、見てみたいです。展示物との距離がとても近く、よく見ることができました。とても貴重で、ありがたかったです。」

男69「戦争展として、出征時の名前のあるのぼり旗、寄せ書きのある日の丸、制服、ヘルメット、水筒など、大変保存が良い。軍服、軍人の人形など、当時を再現されていて感心しました。日韓で争っている、徴用工の裁判から始まった始まった損害賠償。日本政府が認めず、日本の企業が支払わないようにしているのが問題。韓国人に、日本が植民地として、女性も男性も人間として扱っていない。反省と謝罪をしない、日本政府が問題だと思います。」

女83「ビデオは、日本で作られたものではなく、歴史の年表を見ているようで、心の通うものではなかった。風船爆弾の実物らしきものを見たのは初めてで、今までは図面のようなものと遠く空を飛ぶものしか見たことはなかった。長生炭鉱は、初めて知った。日本の会社と日本は、ちゃんと償うべきだ。」

男年齢不明「入口の2枚のボードは、来訪者の目の位置より高いので、読みやすいように下げた方がいいのでは。スタッフの方に聞きたいが、スタッフの名前のわかる方法はないのだろうか。」

男年齢不明「16の説明にある船津辰一郎は、在華日本紡績同盟会の常務理事であり、上海駐在の人物です。非常に素晴らしい展示でした。日本の植民地支配や加害責任についても、考えさせられる展示でした。」

男59「通りがかりで、展示を見ました。見きれぬものでは、ありません。たいへん内容が濃く、深い展示企画であり、もっとこの展示自体をPRする必要があるのではないのでしょうか。もっとたくさんの人に、知ってもらわなければならないと思います。」

男62「毎年継続して、ことごとく努力され、平和について市民に呼びかける取り組みに、またそのスタッフの皆様にご敬意を表します。そして、本当にありがとうございます。まだまだ、歴史の真実についてはたくさん知らないことがあり、一生学び続けなければと思っています。そして、多くの市民や国民に伝えなければならないと強く思います。今日は(今年は)、展示についてじっくり学ばせてもらいました。ありがとうございました。一人でも多くの方に、展示を見てもらって、平和について考えあえるための工夫をしなければと思っています。マスメディア、SNSなどのしつこいぐらいのアピール(宣伝)をしたらどうでしょうか。また、ロコミの方法も、何か考えられればとも思います。あれだけ「24時間テレビ」のような番組は定着しているのに・・・、とくやしく思います。来年は、被爆75年。もっともっと、来場者を増やせるといいなと、ものすごく思います。」

男75「被爆遺物、また建物など、広島市内の各所を紹介したビデオを見ました。沢山の資料、関連用具や小物まで集められた展示に感心しました。常設の展示館を作って欲しいぐらいの収集量です。軍都広島、被爆地ヒロシマであるからこそ、広島市(県)は、後押ししなくてはならない。多くの人に人に見て貰いたいです。」

女73「命を考える戦争展です。ひとくちに戦争と言うけれど、戦争は人殺し、しかも残酷。映像を見ていると、余計に感じます。ン時もじっくり読むとやはり「人殺し」が如何に仕込まれ、いかに組織的にやられてきたかを、学ぶことができました。ありがとうございます。」

女89「女学院2年生から、学徒動員で兵隊さんのシャツや下着類を、教室のミシンで縫っ

ていました。軍服の穴かがりなどは、廊下でしました。戦後は、食べるものも、着るものもなく、倉の中の祖母の着物をといてワンピースを縫ったり裏地の白いところと振りの赤い布で、弟妹の運動会の帽子を縫ってやったり。月月火水木金金で、土曜、日曜などあるもんかの歌がありました。父は海軍、主人は陸軍でした。どちらも終戦になり、復員しましたが、父がもし戦死していたら、私たち5人兄弟の運命もちがったと思います。何にも動じない精神を育てられたと思います。今の若い人は、平和ボケでスマホばかりしていて、老人に席を譲ることもなく、これで日本はだいじょうぶなのかと心配です。私たちが結婚する頃は、男一人に、女性がトラックいっぱいと言われるくらい、男性が本当に少ない頃でした。」

男35「平和資料館では、原爆が悪い、としか展示がないが、日本が何をして原爆に至ったのか、濁している気がしていた。そんな展示を見ても、何も今に生きない。通りがかりで、最終日だったが、この展示を見られて良かった。ここでしか手に入らなさそうな、たくさんの本や貴重な資料は、きちんと読ませていただきます。」

女77「戦争は、二度とあってはいけません。」

男73「戦争があってはならないが、日本は独立国である故に、自分のことは自分で守らねばならない。」

女70「現在、声があげづらくなっているのではと、危惧しているところです。歴史が繰り返されぬよう、この戦争展を続行していただきたい。戦争は、あってはなりません。今やっている戦争も、やめてもらいたい。その力に、なりたいものです。来年も参加したいです。」

女年齢不明「名古屋で起こった、「表現の不自由展、その後」の中止問題をはじめ、日韓の不協和音を心配しています。両国の関係、歴史に興味を持って、展示を見させていただきました。今こそきちんと、両国の問題に、多くの人が向き合わねばと思います。」

女70「長生炭鉱のことは、初めて知り、ショック！ 強制連行や慰安婦をはじめ、加害の事実をしっかりと知らなければと、あらためて思います。今、「戦前」になっていることを強く感じます。戦争への道を、押しとどめるよう、皆さんの努力の継続をとっても大切に思います。」

男67「過去の事実を認めようとしらない今の政府に対し、あらためて憤りを感じさせられました。」

女65「いつも、それぞれのコーナーの担当者が、しっかり準備され、良い展示・発表になっていて、いいと思います。しかし、残念なのは来る方が限られている、少ないと感じます。もっと、外でチラシを巻いたり、宣伝したらと思います。」

男61「長浜で28年生活して、ヒロシマ・ナガサキを学んできていましたが、長生炭鉱のことは初めて知りました。学生のときは、外国人被爆者や捕虜の方、また朝鮮人や中国人がたくさんいたのは、調べました。伝承者を、多くつくらなければと思います。」

男36「現在、世界情勢は混迷を極めています。極右に支配された現政権では、対米自立はおろか、アメリカのカイライとして戦争を再び引き起こしかねません。そのような現状を憂うようなメッセージなどを、最後にどこかに掲げたりすれば、良いかと思いました。」

女18「そのままの物とか、残っていたのでビックリでした。水筒とか、すごかったです。」

女17「私たちが生まれてくる前の時代に、たくさんいろいろなことがあって、苦しい中ここまで未来をつなげてくれていたんだなと、思いました。戦争の時代に生まれず、今の時代を平

和に過ごせて幸せです。今日、この場所に来られて、貴重な体験ができました。ありがとうございました。」

男81「一番印象に残ったのは、「未来のための歴史パネル展示(朝鮮半島と日本)」です。特に、〈徴用工〉問題についての、共同学習の必要性を痛感しました。具体化したいですね。日本と朝鮮の、歴史的理解を深めたいです。」

女70「いつも大変、ご苦労様です。来年も、期待しています。……「長生炭鉱」「徴用工」のお話。ビデオ「沖縄3編」が、良かった。」

男57「たまたま、通りかかりました。内容的には、若い人たちにも見てもらいたい。告知活動を、ぜひお願いいたします。」

女84「父が、日支事変で戦病死。私は、県庁時代、被爆健康手帳交付に邁進した。戦争は、不可。無意味。悪。永久に、平和な世界をめざそう。」

男69「徴用工の問題に端を発し、日韓関係が大きな問題になっているときだけに、朝鮮半島から駆り出された人たちの問題に、関心を高めたいと思いました。また、宇部に3年間在中していた者として、知識を深めなければと見に来ました。これから、できることはしたいと思えます。」

男60「朝鮮と、何かあやしい空気。しかし、日本軍・政府がやってきたことは、悪いことは謝るべきだ。それも、核兵器や原爆といっしょかな。起こってしまったことは、反省し、起こらないようにしなければね。……広島で育ち、今は静岡に住んでいる娘は、平和教育が無いと、言っています。」

女68「あまり時間がなく、朝鮮半島と日本の歴史のことを知り、これをもっと多くの人に伝えて、日韓関係のギクシャクした今日の情勢を少しでも正常なものに戻していきたい。」

男78「開催の勇氣に、敬服。」

女73「今年も、最終日のエンディングに出演させていただき、ありがとうございました。合唱4曲と群読(紙芝居「ジュゴンの海から」は、手作り)を、させていただきました。年々に、TFコーラスのメンバーも、前向きに取り組むようになってきました。戦争展の大切さが分かってきて、寄付金も集まりました。展示内容が毎年変わっていることも、皆様の努力のたまものと思います。大変でしょうが、続けてください。どの展示も、イベント広場も、印象に残りました。来年はもっと、イベント広場に長く、たびたび通いたいと思いました。プログラムに、TFコーラスの内容を入れていただき、共町の合唱練習日にも宣伝させていただいたので、けっこう知り合いが戦争展に、コーラスを聞きにきてくださいました。場所が良いので、足の悪い方も来られたようで、嬉しかったです。TFコーラスも、若い方(と言っても、60歳代)に、運動を引き継いでもらえるようになり、喜んでいきます。来年は、群読の絵を、やはり大型スクリーンに映してもらった方が良いかと感じました。(去年は大型で。今年は画用紙で)練習する時間が少なく、バタバタした面もあり、すみませんでした。入り口付近の「夾竹桃」の絵や花など、良ければ来年も続けさせてください。ありがとうございました。」

上記同一人「①会場前で〈戦争展のお知らせ〉を放送されていたのは良かった。効果があると思います。スタッフの方が、みんなやさしくて、心配りが感じられました。展示品を、大切にされている。 ②日韓関係についての、ジャーナリストや大学教授陣の声明文は、とても

よくわかり、訴える内容でした。初日のオープニングでも、利元さんが今年のポイントについて話されていました。歌声協議会の方が、2曲歌われました。③初日のオープニングセレモニーの後、ゆっくりと見る時間がありました。でも、展示の全部を見るのは、無理でした。内容が濃いので、もっと時間があると思いました。④戦争体験が全くない自分にとって、今年も戦争を身近に感じられる貴重な会でした。テレビの映像を通して知ったことが、目の前の資料で現実のものとして、とらえられます。〈731部隊〉など、日本の行った恐ろしい人体実験が、ミドリ十字につながっていたことを、始めて知りました。ドイツのように、戦争についての国としての反省がないことが、今の日本の政治のゆがみになっていると、考えさせられました。⑤毎年本当に、豊かな内容、時代を撃つ展示。そして、いい長さの講演やパフォーマンスetc. その企画に敬服です。⑥いつも、一般の参加が今ひとつで、どうしたら増えるか、ビラ配りなどできるか？ とか、考えますが……。⑦いつもながら、多くの貴重な資料を集めておられ、もっともっと多くの人(特に若い人たちに)、見てもらいたいと思います。

⑧毎年、テーマを決めての展示、興味深く読んでいます。⑨朝鮮半島を侵略した歴史について、学べて勉強になりました。」

女65「戦後生まれの人間で、戦前のことは知りませんでした。今日、戦争展の展示品の数々を見て、大変恐ろしいことで、絶対に戦争はしてほしくないです。これからも、平和で安心な日本になるよう、願っています。日本のみでなく、世界全体が平和で暮らしやすい世界であってほしいです。」

男76「戦中生まれなので、それ以前の情報は知らない。しかし、戦後豊かになり、過去を再考して、現代の市民社会が今少し、交流豊かな成果としての地道な歩みが見られない。やはり、共産主義と資本主義の対立が、根を引いている。……今後、「現代に続く韓国の政治事情、軍事情報、アメリカとの関係など。」

男84「家内の事情で、最終日にやっと参加できました。例年と比べて、非常に充実した展示になっていた。多くの人々の協力で、このような展示になっているのだと、実行委員の皆様のご努力に、敬意を表します。」

男62「日中戦争の資料が、充実していました。戦争に至る道筋と戦争の歴史を勉強しなければいけないと思いました。私は、平和資料館で被爆者の人形が撤去されたことを、今も怒っています。戦争展で、あのような人形を作って展示することはできるでしょうか。原爆の恐ろしさが、印象づけられると思います。」

女60「広島に生まれ、いろいろ知っているつもりでしたが、来てみてまだまだ知らないことが、たくさんあると思いました。特に、なぜ戦争になったのか、中国で起こしたことの意味(意図)などです。戦争の前史と前夜ということでは、今も危ない状況だと思います。一部の人の考えで、人の命を粗末にされたくはありません。この戦争展は、毎年ありますね。続いてほしいです、活動ご苦労様です。ありがとうございます。」

男70「多くの人々が、紙芝居を見ておられました。子どもも、いました。パネルとはまた違った、インパクトがあります。毎年継続しておられることに、敬意を表します。今年は、何のお手伝いもできず、申し訳ありません。」

男68「大変、勉強になりました。戦争を知らない世代ですが、このことは後生につなげねば

なりません。〈15年戦争〉のところを、もっと展示を充実してほしい。開戦から、敗戦まで。」
女60「今日、ここに来られてとても良かったです。戦争が、いかに愚かで酷いかを再認識しました。私自身、在日2世(朝鮮人)として、ひしひし感じました。昨今、日本の社会は、どこへ向かっていこうとしているのか、とても危惧しております。未来を語ろうと思えば、過去を知らないといけないのに、今はそうでなく、右へと舵を取っているとしか、思えません。そんな中、こういう展示会が催されることは、とても勇気づけられました。私も来月、9月1日に高暮ダムに強制連行された方々の慰霊祭を行うため、頑張ってます。これからも、一緒に頑張りたいと思います。」

女36「1時間では時間が足りず、撮った写真で読ませてもらおうと思います。……〈子どもたちの民俗資料館〉の、「民主主義」の本が、かっこよかった。「朝鮮半島の歴史」や「731部隊」は、読むのが辛いくらいで、胸が痛すぎてしんどい。」

女70「戦時中の、日の丸や軍服に圧倒され、胸が苦しくなるようです。あんな軍服に身を固めて、人と人が殺し合う戦争など、まっぴらごめんです。戦争反対、核兵器廃絶、原発反対。世界中の人々が、笑顔で幸福になりますように。微力ではあるが、無力ではない。力を、尽くしたいと思います。」

女59「平和のために、考えられました。ありがとうございました。」

男65「今年の夏は、7月28日～8月9日まで、奈良→大阪→韓国と放浪し、メールではほとんどノーチェックでした。8月21日に生活課に行った帰りに、サヨナラ原発の事務所をのぞくと、この戦争展のチラシを受け取った。……3月1日をきっかけに、「日韓学習会」で落ちていた歴史を学び、改めて戦争のこと、それを引き起こす人間の心、資本の構造を学ぶなおす機会を得ました。久しぶりに、8・6ヒロシマを異郷の地で迎え、かえって深く味わうことができました。8月7日の朝、静岡県のJR掛川駅北口の公園で目を覚ますと、掛川市議の勝川志保子さん(共産党2期目?)が、辻立ち街頭宣伝。赤旗の朝刊に記載された記事を、今までになく、スミからスミまで読ませていただいた。来年、#PK75(被爆75年を、#ピカ曆として、〈PK〉と表現することを、個人的に始めています)が、大きな節目だという指摘は、まったく同感です。コスタリカさんと同様に、国連に向けて大きなうねりを造っていきたいものです。原水協だけの、とりくみでなく、核廃絶に取り組む全ての人々(学会員もちろん)が、皆でニューヨークに向けて歩きましょうか。閑話休題……戦争展については、昨年「コスタリカの軌跡」が無料で観られるということで、初めて出会い、展示などは全く見る時間がありませんでした。今年は、じっくりと腰を据えて視させて、聴かせてもらおうとハリキってたのですが、何やかやと予定が入り、最終日の今日#PK74. 08. 26(月)で、ギリギリ閉館には間に合ったという訳です。利元さんには、概要を伝えておきましたので、後日、ご批判いただければ幸いです。〈在外被爆者〉豊永恵三郎、〈今学校は、何をめざしているか〉今谷賢二。DVD〈広島先生たちの物語〉を、視聴。性別に、どちらでもないという、LGPT対応の選択肢を設けては。」

女年齢不明「民間人も巻き込み、大変愚かであったインパール作戦についての、展示があれば良かった。」

以上